

ふたりのコラム

December 24, 2020

認定こども園あかみ幼稚園 園長 中田幸子
認定こども園メイプルキッズ 施設長 新井利枝

《3・4・5歳児》

今年の冬はとても寒いように感じます。室内の換気のため、窓を少し開けていますが、そこから冷たい空気が流れ込んでくるからでしょうか。

さて、先日21日は冬至でしたね。冬至といえば、カボチャと柚子湯。ビタミンなどが豊富で、体に良いカボチャが冬至に食べられるようになったのは、比較的歴史が浅いようです。一方、柚子湯の歴史は古く、すでに、江戸時代にはそのような風習があったようです。もし関心があるようでしたら、親子でカボチャ・柚子湯の由来や歴史などを調べてみるのも面白いですね。

2050年温室効果ガス排出量を実質ゼロに…

環境省は、今月21日、2050年までに温室効果ガス排出量を実質ゼロにする目標を法定化する方針を決めたそうです。

国を挙げて方針を打ち出していくことは、企業や行政が、その方向に導かれるからとても評価できることです。そのことと併せて、個人個人の認識も重要になります。私たちは、未来の日本、未来の世界を担っていく子どもたちが、自分たちの住む地域のこと、日本のこと、そして世界のこと、地球のこと…もしかすると今後は、宇宙のこと…となるかもしれませんが、大切に考えられる人になってほしいと願っています。



日本の古建築での年長組の書道は・・・



さてこの度、日本の「伝統建築工匠の技」が、ユネスコの無形文化遺産への登録が決定したことは記憶に新しい方もいらっしゃるかと思います。宮大工・左官・茅葺…。日本には、素晴らしい文化がたくさんありますね。

もり組の子どもたちが書道を行っているのは、ご存じの方も多いかと思います。書道は、文字の習得を第一の目的としたものではなく、文化の伝承を大切に行っています。硯で墨を磨る。静かな気持ちで（これは単に静かにするというだけではなく、気持ちを静める…ということ）向かう。結果的に文字に関心を持ったり、文字には書き順があることを知ったりします。また、当園の書道は、250年前の古建築を移築したひがしやま山荘で行っています。中に入ると漆喰の白壁に、曲がった梁など、なかなか少なくなってしまう、日本古来の建物を



肌で感じることができます。

子どもたちは、将来、国際社会に出て英語で商談などを進めるかもしれません。そんなときも、ただ英語が話せるということだけではなく、自分が生まれ育った日本の文化について語れたら素晴らしいですね。

また、自分の生まれ育った日本やこの地を愛せたら素晴らしいですね。そんな大人になってほしいと願っています。

クリスマス会

今年のクリスマス会は、部屋の密度を下げるため、縦割りのクラスで3日間に分けて行いました。時間的にも空間的にも、とてもよいクリスマス会となり、子どもたちは、例年通り十分楽しめたことと思います。もり組が、パワーのでる仲間※で出し物を見せてくれ、その後まねっこをしてステージごっこが各クラスで大流行しました。大きい学年への憧れの気持ちを持ち、また「自分もやってみたいなあ」…という活動意欲を掻き立てる大きな原動力になります。



※パワーのでる仲間・・・それぞれが伸びあえるグループ

グループ作りというと、リーダーがいて、そこに付いていく子どもたちがいて…とイメージする方もいらっしゃるかもしれませんが。このパワーの出る仲間は、例えば、意見をたくさん発言する子ども同士が一緒になって、自分の意見を貫くだけでは話が進まず、意見の対立があったときに折り合う点を見出していくような経験ができるように組んだり、また例えば、なかなか自分の意見が言えない子どもたちが一緒になって、自分が意見を言わないと話し合いが進まず、自分で考えて、小さい声であっても自分の意見を相手に伝え、話し合いを進めていくような経験ができるようなグループを組んだりします。これは、極端な事例ですが、このようにそれぞれが力を発揮できるよう考慮されたものです。



今日は、クリスマス・イブ。子どもたちにとっては、楽しいイベントの一つかと思います。本日、各クラスにクリスマスプレゼントを届けました！！

これからの年末年始は、ご家族で過ごす時間が長くなると思います。それぞれの方が有意義な時間の過ごし方を考えていらっしゃるかもしれませんね。1年1年子どもたちの成長は目覚ましいものがあります。私のように子どもが大きくなった今、あの頃が懐かしいなあと思うことは度々です。でも、その頃は、子育ての大変さのほうが大きかったようにも思います。お仕事の休みが取れた時には、親子にとっての“今”の“この時期”を大切に過ごしてほしいと願っています。

今年もいろいろとありがとうございました。

(文責：中田)

《0・1・2歳児》

強い寒気が流れ込み、新潟県や群馬県の山沿いでは記録的な大雪となっているようです。冬型の気圧配置が緩むのもつかの間、年末年始はまた強い寒気が流れ込んでくる予報のようです。体調管理には十分に注意し、元気に過ごして行きたいですね。

日本には四季の変化があります。この寒さも冬ならではのですね。子ども達の生活もこの季節と共にあると思っています。

寒い日に戸外で元気に遊び、ふと気が付けば手が冷たい……。遊びに夢中になっている時には、気にならなかったことが、ふとした瞬間に気づくようです。つい先日も水道の前で泣きそうになっている子がいました。近くにいる保育者が声を掛けると、どうやら、水の冷たさが分かっていて手を洗うのがイヤだったようです（これは、メイプルキッズあるあるで、逆に手を洗ってから、冷たさにびっくりすることも……）。また、保育室では、窓から冬の日差しが差し込み、ふんわりとした温かさに気づき、「先生、ここあったかいよ」と声をかけてくる子もいました。日が当たる場所は暖かいという気づきや、冷たい場所と暖かい場所の温度差の発見、氷の不思議さ等々、冬の季節を肌で感じられる場面が多々あります。子どもたちの日々の生活の中でのこうした「感じる」を大切に、私達保育者は共感したり、寄り添ったり……。心と体で感じとる環境を用意していきたいと思っています。

つめた
いね！



みつけた！
何が見つかったかな？



日が当たってあったかいね～



今年、新型コロナウイルスの影響もあり、4月からスムーズな保育がスタートできませんでしたが、それでも、今日までの日々の保育の積み重ねの中で、子どもたちは心身ともに成長をしています。

メイプルキッズでは、遊びと生活の連続性を大切に、子どもたちがたっぷり体を動かして遊び、おいしく食事をして、その後、安心して午睡をする・・・一日の生活が子ども達に無理なく、気持ちや動きに沿ったものにできるよう日々の保育を行っています。

こうした日々の繰り返しから、子ども達は、自分なりに見通しを持てるようになってきています。1歳児クラスでも、「お外にいこうか」と声を掛けると、自ら帽子や靴下を準備しようとする子もいます。また、2歳児クラスでは、12月から上履きを履いての生活がスタートしましたが、それまでの経験の積み重ねがあり、靴箱にスムーズに仕舞うことができていました。他にも、フックにジャンパーをかけたり、はずしたり、帰りの支度も何をするのか分かってきて、自ら取り組む姿も見られてきました。

こうした姿は、まさに日々の生活の繰り返しの上にある姿です。

毎日過ごす中で、「お外に行く時は、帽子をかぶる」「外から戻ったら、手を洗う」など、子ども達自身が覚えていきます。

保育者に指示をされ、その指示通りに動くのではなく、子ども達が次に何をするのか見通しを持てるようにしたり、動きやすいよう場を整えたり、子どもの気持ちに寄り沿った声掛けや関わり、そして子どもたちが自分で動き出すのを「待つ」保育を実践しています。

そのためには、ゆったりとした生活の流れがポイントになります。子どもを急かせることなく、「先生、待ってるから大丈夫だよ」と声を掛けると、子ども達は、安心して自分でやってみよう！と意欲的に行動します。

つい先日も、戸外へ遊びに行く準備をしていた2歳児の数名。昇降口で靴を履くのに少し手こずっていたA君。保育者が「がんばれ、自分でできるかな？」と声をかけると「大丈夫、できる！」との返事。保育者は「A君が履けるの待ってるね」と近くで見守っていました。先に何人かの子が戸外へ走って行ってしまい、少し不安げだったA君ですが、保育者の言葉を聞き、安心した表情で靴を履くのに夢中になっていました。その後、靴も履けて準備万端！保育者と一緒に満面の笑みで園庭へ走って行きました。

保育者が手伝ってしまえば、すぐに履けますが、「待つ」ことで子どもが自分でできることやチャレンジすることが沢山あります。

私達保育者は、子ども達が何をしようとしているのか、何を思っているのか、子どもの声や思いに耳を傾け、見守り、時には手を貸し、子ども達が主体的に生活できるよう願っています。

そして、日々成長していく子どもたちの姿を実感し保護者の方々と喜びあえることが保育の醍醐味でもあるのです。

最後に体調管理に気をつけてよいお年をお迎えください。



(文責：新井)